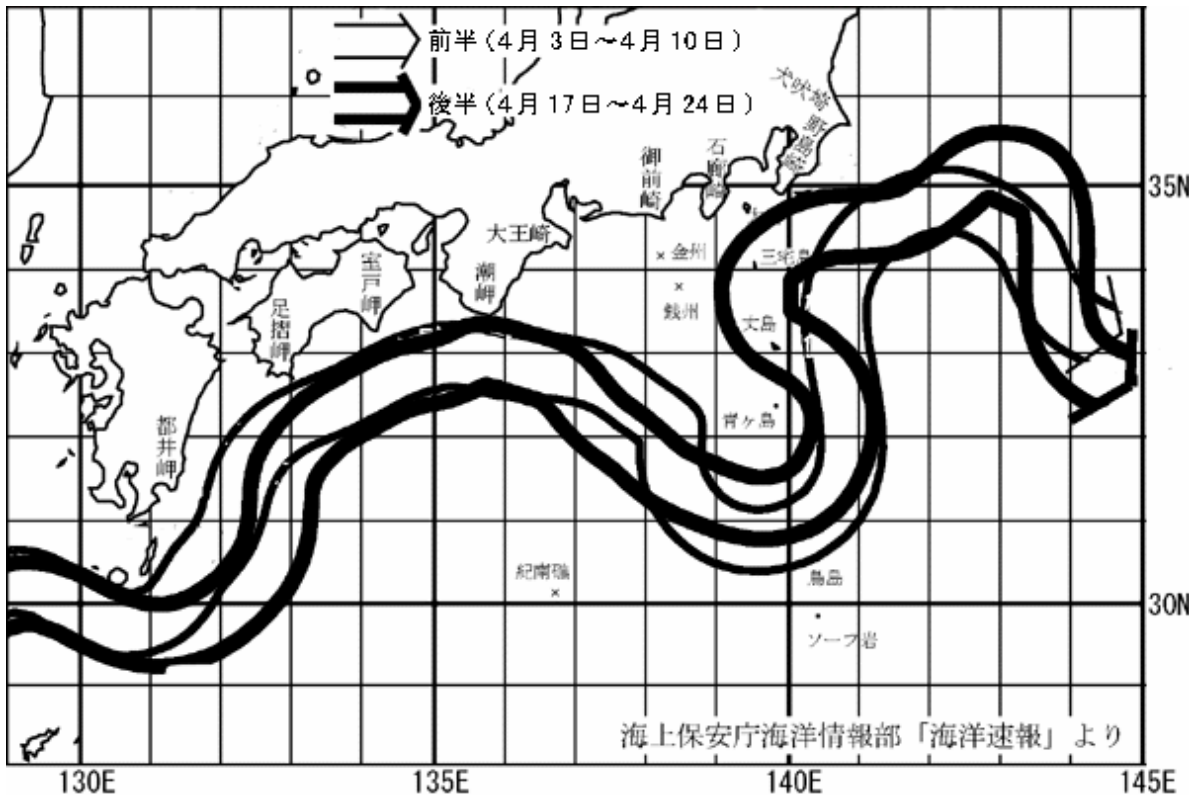


漁海況月報

平成19年4月1日

No. 4 ~ 4月30日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産技術研究所伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



定地水温の旬平均値 (°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	15.3	16.0	15.3	15.9	16.0	16.1	15.1
	0.6	1.0	0.4	-0.2	-0.1	1.1	0.8
中旬	15.2	15.8	15.4	16.3	16.3	15.9	15.1
	0.0	0.4	0.0	-0.2	-0.3	0.1	-0.2
下旬	15.7	16.5	16.4	16.8	16.7	16.5	15.8
	-0.5	0.5	0.2	-0.3	-0.6	0.0	-0.6
月	15.4	16.1	15.6	16.3	16.3	16.2	15.4
	0.0	0.7	0.1	-0.2	-0.4	0.4	0.0

【黒潮流路】

前半、九州東岸から潮岬にかけて接岸傾向を示し、潮岬から東南東に流れた。その後、相模湾沖 31° N付近まで離岸した後、伊豆列島東側を北上した。

後半には、九州東岸においてやや離岸傾向を示したが、足摺岬から潮岬にかけては接岸し、潮岬から南東に流れた。その後、相模湾沖 31° 30' N付近まで離岸し、青ヶ島を迂回した後、伊豆列島線に沿って北上した。

【県下沿岸域】

県下の定地水温は、相模湾では 14~16°C 台、駿河湾東部では 14~17°C、西部では 11~17°C 台で経過した。前月に比べて黒潮北上部からの暖水波及が弱まったため、上旬においては平年並からやや高め、中旬においては平年並で、下旬においては稲取を除いて平年並からやや低めで経過した。

【竿釣近海カツオ】

4月の県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海カツオの水揚量は 124 トンで前年同期の 109% であった。魚価は 752 円/kg で、前年同期を大幅上回った。

静岡県船は前期ではハロス、スミスで、後期は海徳場でキメジ、シビコ、チャップパを中心に漁獲した。

竿釣近海カツオ水揚量（県内主要5港）

期間	水揚量 (トン)	水揚隻数	水揚/隻 (トン)	平均単価 (円/kg)	
19年4月	上旬	40	9	4.4	768
	中旬	44	9	4.9	830
	下旬	40	9	4.4	653
19年4月計	124	27	4.6	752	
18年4月計	114	29	3.9	568	
17年4月計	632	79	8.0	330	

【定置網】

平成19年4月、伊豆半島東岸大型定置網8か統（伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の水揚量は 492 トンで、操業がなかった赤石を除く 1 漁場当たり水揚量 70.3 トンは前年 40.6 トン（7 漁場）の 173%、平年値（昭和57~平成18年）51.4 トンの 137% であった。

魚種別漁獲量は、①カタクチイワシ 186.7 トン（A：前年同月比 239%、B：平年同月比 624%）②マアジ 96.4 トン（A：104%、B：59%）③ワラサ 78.0 トン（A：1129%、B：357%）④スルメイカ 33.6 トン（A：390%、B：204%）⑤ブリ 19.0 トン（A：329%、B：148%）の順であった。カタクチイワシは古網、富戸、北川、川奈を中心に入網し、昭和58年以降で最も多く漁獲され、被鱗体長のモードは 12cm にみられた。マアジは川奈を中心に入網し、尾叉長のモードは 18~20cm と 23cm にみられ、1歳魚と2歳魚中心と考えられた。ワラサは北川、川奈、富戸を中心に入網し、昭和58年以降で3番目に多く漁獲され、尾叉長のモードは 67cm にみられた。スルメイカは北川、川奈を中心に入網し、外套背長のモードは 21cm であった。ブリは川奈、伊豆山を中心に入網し、測定できたものの尾叉長のモードは 78~79cm、平均体重約 6.6kg であったが、月間平均体重は 7.9kg と測定したものよりやや大型であった。

漁場別水揚量は、川奈 140 トン（マアジ、カタクチイワシ、ワラサ中心）、北川 107 トン（カタクチイワシ、ワラサ、スルメイカ中心）、古網 102 トン（カタクチイワシ、マアジ、ブリ中心）の順であった。

【サバたもすくい棒受網】

小川港にはたもすくい、棒受網によってマサバ 228 トン、ゴマサバ 438 トンが水揚げされた。棒受網の漁場は三宅島周辺に、たもすくいの漁場は、下旬前半までは高瀬（ヒョータン）に、下旬後半には大室出し周辺海域に形成された。三宅島近海では、尾又長 28～32cm のゴマサバ主体に、35cm 以上のものと尾又長 30～33cm のマサバがわずかに混獲された。また、高瀬及び大室出し近海では、尾又長 32～35cm のマサバ主体に、尾又長 29～32cm のゴマサバが 3 割程度混獲された。1kg 当たりの平均単価はマサバでは 171 円、ゴマサバでは 71 円であった。

小川港 サバ類（たもすくい・棒受網漁業）水揚量

期 間	水揚量 (ト)	日数	延隻数	1 隻当り (ト)	漁 場
平成19年 上旬	371	6	21	17.7	高瀬、三宅
4月 中旬	127	3	7	18.1	高瀬、三宅
下旬	168	2	6	28.0	高瀬、大室出し、三宅、三本
計	666	11	34	19.6	-----
平成18年4月	600	10	23	26.1	三宅、利島
平成17年4月	631	10	21	12.8	新島、高瀬、三宅

【サクラエビ船曳網】

平成19年春漁は、4月2日が初漁となった。4月は10日出漁し、水揚量は430トンと前年同月を上回った。漁場は主に沼津沖に形成され、水揚げされたサクラエビは、体長34～35mmにモードを持つ当歳エビを主体として、体長42mmにモードを持つ1歳エビとの2群で構成された。

サクラエビ水揚量

期 間	水揚量 (ト)	日数	1日1か統当り (kg)	漁 場
平成19年4月 上旬	105	3	平均 584	沼津沖
中旬	89	3	平均 494	沼津沖
下旬	236	4	平均 983	沼津沖
平成19年4月 計	430	10	平均 717	—
平成18年4月 計	395	9	平均 732	蒲原～沼津沖
平成17年4月 計	489	9	平均 905	由比～田子の浦沖

【シラス船曳網】

1日1か統当りの漁獲量は、駿河湾では362kg、遠州灘では400kgで、主要6港平均では389kgと前年同期(129kg)の3.0倍、平年同期(過去5年平均:303kg)の1.3倍と前年及び平年を上回った。また、総水揚量は1,139.2トンで前年同期(157.7トン)の7.2倍、平年同期(573.3トン)の2.0倍と、前年及び平年を大きく上回った。平均単価は588円/kgと平年同期(802円/kg)を下回った。

シラス水揚量（主要6港）

漁 港	水揚量 (ト)	延日数	延統数	平均漁獲量 (kg/統・日)	平均単価 (円/kg)
新 居	90.3	20	270	334	530
舞 阪	416.1	20	903	461	603
福 田	227.0	19	510	445	470
御前崎	102.2	20	405	252	609
吉 田	202.7	20	519	391	601
静 岡	100.9	16	320	315	792
平成19年4月計	1,139.2		2,927	389	588
平成18年4月計	157.7		1,223	129	962
平成17年4月計	23.1		223	104	902

【まき網】

小川港ではマイワシが0.9トンの水揚げで平年同期(61.3トン)を大きく下回った。沼津港では、マイワシが15.1トンの水揚げで平年同期(114.5トン)の13%で、カタクチイワシはほんの僅かの水揚げであった。静浦港ではマイワシが0.1トン(平年同期6トン)、カタクチイワシが45.4トン(同61.4トン)の水揚げで、いずれも平年同期を下回った。伊東港ではマイワシが0.1トン(同1.1トン)の水揚げであった。

注) 平年同期: 過去5か年(2002～2006年)平均

【調査船の動向】

富 士 丸

4月9日 ～ 4月25日 第1次近海カツオ・ビンナガ調査 (17日間)

駿 河 丸

4月6日 ～ 4月6日 観測機器点検(駿河湾) (1日間)
 4月9日 ～ 4月9日 公共用水域水質調査(駿河湾) (1日間)
 4月10日 ～ 4月12日 地先観測(駿河湾、遠州灘) (3日間)
 4月20日 ～ 4月20日 マリンロボ調査(駿河湾) (1日間)
 4月24日 ～ 4月24日 深層水調査(駿河湾) (1日間)
 4月26日 ～ 4月26日 サバ調査(駿河湾他) (1日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/imode/index.htm>
 右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAによる海面の水温分布画像を見ることができます。

